

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心（LOVE & PRIDE）にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

2 中期的目標

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる基礎学力の定着と活用型学力の獲得をめざす。

- ア 進路実現に対応可能な基礎学力を向上させるため、実態を正確にリサーチしながら、わかりやすく自信がつく授業を行う。
※学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」の項目において、平成 31 年度までに 80%の肯定率をめざす。(平成 28 年度：71.6%)
- イ 主体的・対話的で深い学びのある授業を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力の育成と活用型学力を育成する。また、ICT機器の授業における効果的活用を促進する。
※各講座での「主体的・対話的で深い学びのある授業」の導入を促進し、平成 31 年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。
- ウ 英語専門コースでは、より高いレベルでの 4 技能習得のため、組織的に指導方法の研究と実践を行なう。
※英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇(平成 31 年度に 3.5)
- エ 放課後学習や週末課題の活用により、家庭での学習習慣を定着させる。
※2 年生での家庭学習の平均時間を、平成 31 年度までに 1 時間以上とする。
- オ 英語検定等、各種検定試験を利用し資格取得によって生徒の自己肯定感を高める。
※平成 29 年度には第 1 学年の約 60%が受検、うち約 60%の合格をめざす。(目標は 1 年：3 級、2 年：準 2 級、3 年：2 級)
- カ 国際交流活動で英語やコミュニケーション能力、国際感覚等を高める。(外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。)

(2) 大学入試改革に対応した「確かな学力」の育成と評価を研究し、新制度入試での生徒の希望進路実現に備える。

- ア 新制度で大学入試が行われる平成 32 年以降においても進路保障が確実に行えるよう、高大接続改革の状況をリサーチしながら、新制度に対応する「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法について研究と実践を行う。
※「大学入試改革に関わる授業変革プロジェクトチーム(平成 28 年立ち上げ)による研究と研修(年 2 回以上の研修)
※「確かな学力」を評価するための観点別評価の導入(平成 30 年度から本格実施)

2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

- ア 遅刻指導、服装指導、授業規律を徹底することにより、規範意識を育成し自尊感情と自信を高める。
※遅刻数は、平成 27 年度に約 900 件となり平成 29 年度には 800 件を早期達成したため、これを維持・さらに減少に努める。
※学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率 95%以上を維持する。

(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導を行なうことで安全で安心な学習環境を維持し、生徒の健全な成長を支援する。

- ア 何らかの悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図り関係機関とも連携する。
※学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率を平成 31 年度までに 60%以上にする。
※教育相談担当者等によるケース検討を年間 20 回以上行なう。(毎年)
※生徒の障がいや特性の理解を深め、適切な「合理的配慮」と指導・評価が行なえるよう、事例検討を含めた研修を行なう。(毎年)

(3) 来校者や地域の方へのあいさつの励行による、社会性と自信の育成。

- ア 「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。
※学校教育自己診断(生徒)の挨拶に関する項目の肯定率を平成 31 年度までに 80%以上にする。

3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携

(1) 伝統ある学校行事・部活動により主体性や協調性を育成し愛校心も育む。

- ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己有用感や自己肯定感を高める。
※学校行事の満足度は、26 年度 83%、27 年度 88%、28 年度は 88.9%と上昇しており、平成 31 年度には 90%をめざす。
- イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。
※部活動入部率は、26 年度の 1 年生当初が約 77%、27 年度 65%、28 年度 68%であり、安定して 70%以上となるようにする。
- ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。

(2) 地域行事等への積極的な参加や広報活動により、地域の信頼を高め自尊感情や自己有用感を育む。

- ア 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。
- イ 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。
- ウ 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]				学校協議会からの意見
主な項目における結果 (%)				<p>【第 1 回 7 月 5 日】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全般の印象として、校風がよくて明るい印象である。 ・学校の立地及び近隣からの評価について、必ずしも通学に便利だというわけではないが、生徒指導などで評価が高い。 ・教員の取り組みについて、教員が同じ方向を見ている印象がある。 ・中学からの志望者の動向について、枚方市内からの出願が減っている件については、市内の中学生人口も含めて分析するべきだ。 ・今後の課題について、新任の教員とベテラン教員との融合、クラブと学習とのバランスを取るなどが求められている <p>【第 2 回 11 月 21 日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学後の意見として、授業において教員と生徒のやりとりが活発である。アクティブラーニングの手法を取り入れている。まさに教育の転換期であることを実感する。 ・教室などの環境について、クラスの生徒人数が多すぎて、教室に空間的なゆとりがない。 ・授業アンケートについて、特定の教科のスコアが低いとしても、個人レベルではスコアの
内容	生徒	保護者	教員	
学校への満足度(学校は楽しい、通わせてよかった。)	72.3	88.9	—	
授業への評価(わかりやすい、学力がのびされている)	69.4	81.1	—	
進路指導に対する評価	81.0	74.4	93.4	
生徒指導に対する評価	94.6	87.8	93.3	
学校行事、部活動に対する評価	84.2	84.6	86.6	
学習環境が整っている。	70.3	87.8	86.6	
【分析】				
重点項目である「学校へ行くのが楽しい」が昨年度より 2 ポイント減少している原因が、同じく重点項目である「授業がわかりやすい」の 2 ポイント減少にあるのではないかと推測される。授業改善に取り組んできているが、授業の変革の意義が生徒に周知されていない面がある。				
「学校行事、部活動に対する評価」も昨年比で 4 ポイント下回っている。				

府立枚方津田高等学校

<p>生徒の変質によるニーズの変化が背景にあるように思われる。</p> <p>また、「学習環境が整っている」が全体では昨年比べて1ポイント上昇してはいるものの学年別にみると、学年が上がるにつれて10ポイント近く低下している。設備や教室内の雰囲気を含めた学習環境を整えて、心地よい環境の中で授業を聴ける体制を作ることが理解力を上げることになり「授業がわかりやすい」ことに繋がっていくと思われる。授業担当者に今まで以上に主体的な学びを展開する授業改善を迫られていることは言うまでもない。「挨拶をする」「遅刻をしないように心がける」「学校のルールは守る」はいずれも昨年を上回っている。年々学校全体の規範意識は高まっている。</p>	<p>高い教員もいるはず。授業形態とスコアの関係を知りたいと感じた。</p> <p>【第3回2月19日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善について、グループワーク、IT機器の活用など若手の教員を中心に様々な変化がある。授業形態の変化について生徒にその意味を周知することが大切である。 生徒・保護者の意識の変化について、部活動の指導が忙しいが、効率化を図り、「部活動が忙しくて勉強できない」、「進学にも目を向けたい」というニーズにこたえる必要がある。 教員について、学校教育自己診断において、「相談できる教員」が増えていることは素晴らしいことである。生徒と先生の信頼関係の基礎ができていくことは学校にとっては重要なことである。 英語コースの今後について、これまでのコース選択者の進路を明確にして、利用することも大切。キャッチフレーズを付けるなどの取り組みも可能で有効である。 学校教育自己診断の質問項目を再考して、必要な数値を得る工夫が必要である。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	<p>(1) 基礎学力の定着と活用型学力</p> <p>ア 基礎学力の向上と進路指導</p> <p>イ 主体的・対話的学びの実践</p> <p>ウ 英語専門コースの再編</p> <p>エ 家庭学習の定着</p> <p>オ 各種検定試験への取組み</p> <p>カ 国際交流活動の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「わかる授業」のための授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育産業の実力テスト継続活用による基礎学力充実と進路実現のための分析と指導、保護者への情報提供 <p>イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施とICT機器の活用研究</p> <p>ウ・英語専門コース改革のための組織を立ち上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> より生徒の興味関心を引き出す授業作りをめざす。 <p>エ・放課後学習と週末課題の組織的取組み</p> <p>オ・英語検定等の対策指導を行い意識を高める</p> <p>カ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国派遣事業の継続実施。 	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断「授業はわかりやすい」75%以上 [H28:71.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 実力テスト結果における下位区分者を入学時と比較して30%減少 [H28:18%減] 1年保護者対象の成績分析説明会開催(年1回) 進路実現に関する満足度85% (H28:83.2%) <p>イ・授業におけるアクティブラーニング率の増加 [H28:33.6%]</p> <p>ウ・改革プロジェクトの立ち上げ。(年5回以上の会合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2以上 [H28:3.2] <p>エ・週末課題等の提出率9割以上 [H28:9割達成]</p> <p>オ・年間の英検受験者・合格率の増加。 [H28:受験者増352名]</p> <p>カ・教育旅行1校受入れ・米国派遣10名以上参加 [H28:10名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業はわかりやすい」との回答は69.4%で昨年より2ポイント下がった。生徒の記述部分から授業への要求が高くなっていることがその一因だと考えられる。主体的な学びを実践する授業改善の取組みが必須である(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 下位区分者は20.8%減少。昨年の数値を上回ったが、目標には到達できなかった。(△) 1年生保護者対象成績分析会は年3回実施。(◎) 進路実現に関する満足度は81%で目標には到達できなかった。(△) <p>イ・主体的・対話的な授業実施の全体に対する割合は34.1%で昨年から上昇。(◎)</p> <p>ウ・「英語コース検討委員会」を13回開催。英語コースのカリキュラム改訂やシラバス作成について検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語専門コースの授業満足度は昨年に引き続き3.2(◎) <p>エ・週末課題の提出率は100%を達成。(◎)</p> <p>オ・英検受験者は減少。[H29:286] (△) 合格率は5ポイント増加[H29:40%] (○)</p> <p>カ・6月にマレーシア生徒との交流を実施。12月に台湾金門高級中学校来校(生徒38名、教員3名)。主にクラブ活動に参加してもらうなど交流。生徒も積極的に行動できていた。米国短期語学研修派遣に13名の生徒が参加予定。(◎)</p>
	<p>(2) 高大接続改革への対応準備</p> <p>ア 「確かな学力」育成と評価の研究</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「大学入試改革に関わる授業改革プロジェクトチーム」を中心とした「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法の研究と研修</p>	<p>(2)</p> <p>ア・プロジェクトチームによる「確かな学力」育成と評価に関する研修年2回行う。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「2020年問題検討委員会」を立ち上げた。職員会議等を利用した研修の形式で文科省の動きなどの情報提供や他校視察などの様子を随時報告。(◎)</p>

府立枚方津田高等学校

<p style="text-align: center;">2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開</p>	<p>(1) 規範意識の醸成 ア 遅刻と服装指導、授業規律の徹底</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導 ア 教育相談の充実と関係機関連携</p> <p>(3) あいさつの励行 ア あいさつ運動の展開</p>	<p>(1) ア・遅刻指導・服装指導の継続実施。 ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。</p> <p>イ・特別活動等で人権尊重意識醸成の取り組みを行う。</p> <p>(2) ア・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。 ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を行なう。 ・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。</p> <p>(3) ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻数 900 件未満の維持 [H28:648 件(1/20)] ・自己診断(生徒)の「落ち着いた学習環境」への肯定率 70% [H28:69%]</p> <p>イ・人権に関する講演の開催 (1回)</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)での規範意識の肯定率 95% [H28:93.6%] ・教育相談・支援教育に関するケース検討 (20 回以上) ・関係機関連携を必要に応じた回数確実に行う。(昨年延べ 5 回) ・教育相談・支援教育に関する研修実施 (1 回) ・自己診断での教育相談の肯定率上昇(5 ポイント上昇) [H28:11.3 ポイント増]</p> <p>(3) ア・自己診断の「あいさつをしている」80%以上 [H28:77.4%] ・早朝のあいさつ運動実施 年 30 日以上</p>	<p>(1) ア・遅刻数は 1 月 20 日現在 323 件で昨年に続き激減。教員による地道な取り組みが成果となった。(◎) ・「落ち着いた学習環境」への肯定率は 70.3%(○)</p> <p>イ・人権に関する講演会を 1 度開催。さらに学年単位で視覚に障がいのある方の講演会を企画実施した。生徒の人権についての意識向上は昨年より 2 ポイントも上昇。(○)</p> <p>(2) ア・「規範意識」の肯定率は 93.6%で横ばい。 (H28 93.6%→H29 93.9%) (△) ・教育相談・支援教育に関するケース検討 22 回(1 月まで)生徒に寄り添う指導の一環 (◎) ・関係機関との連携は、子ども家庭センターを中心にのべ 15 回。(◎) ・教育相談・支援教育に関する研修を 1 回実施。(○) ・校内で相談できる先生がいるとの回答は 1 ポイント上昇。 (H28 59.66%→H29 61.1%) 生徒一人一人を大切にす教員の姿勢が評価された。(◎)</p> <p>(3) ア・「挨拶をしている」85.1%(◎)。1 年生では 91.4%で 9 割を超えた。 ・早朝のあいさつ運動 30 日以上実施。(◎)</p>
--	--	--	---	--

府立枚方津田高等学校

<p>3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携</p>	<p>(1) 行事や部活動による主体性・協働性と愛校心の育成 ア 生徒主体の行事運営 イ 生徒主体の部活動運営</p> <p>ウ 中学生体験入部や交流の推進</p> <p>(2) 地域行事等への参加と広報活動 ア 地域行事等への参加 イ 生徒・教職員一体の広報活動</p> <p>ウ 学校説明会と中学校訪問</p>	<p>(1) ア・生徒が主体となるよう学校事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。 イ・部活動での生徒の主体的活動を支え、社会性やリーダーシップ、組織運営力など「生きる力」を育成する。</p> <p>ウ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。</p> <p>(2) ア・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。 イ・生徒と教職員による中学校・中学生への広報活動。 ・英語専門コースの生徒による、学校説明会や地域の小中学校を訪問してのプレゼン等により学校の魅力を伝え、生徒の自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>ウ・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。</p>	<p>(1) ア・イ ・自己診断（生徒）の学校行事及び部活動への満足度90%以上 [H28:88.9%] ・1年生の入部率70% [H28:68%]</p> <p>ウ・「部活動体験会」などを1, 2学期で5回以上実施 [H28:17回] ・部活動交流に参加する中学生500名以上 [H28:580人]</p> <p>(2) ア・地域の行事等への参加(3回以上) [H28:7回] イ・中学校向け広報紙の発行と配布(6回以上) [H28:6回] ・地域の学校での生徒によるプレゼンや広報を積極的に実施。</p> <p>ウ・中学校訪問60校(80回) [H28:60校]</p>	<p>ア・イ 行事、部活動への満足度は84.2%で目標には届かなかった(△) 行事の充実は、今後も学校経営の一つの方針である。 ・1年生の入部率は70%で目標を達成した。部活動と学業の両立を図る。(◎)</p> <p>ウ・中学生対象の「部活動体験会」を1, 2学期で17回実施。運動部だけではなく文化部も交流を行った。(◎) ・今年度参加の中学生は532名。中学への周知の方法やWeb受付など、申し込み方法を改善した。(◎)</p> <p>(2) ア・地域の施設での公演など7回実施。本校のクラブ活動のレベルの高さが認識された。(◎) イ・「津田校通信」を年6回発行し、学校最寄駅構内に掲示するなど学校のPRに努めた。(◎) ・地域の中学校が開催した英語フェスティバルに生徒を派遣し、海外派遣の体験についてプレゼンを行い非常に高い評価を受けた。中学生対象の学校説明会でもプレゼンをおこなう。(◎)</p> <p>ウ・中学校訪問は61校に対し80回実施し、情報提供に努めた。またその他管理職による中学校訪問も実施。(○)</p>
--------------------------------------	---	--	---	---